

母子保健領域における健康教育に関する研究

研究協力者：野崎貞彦¹⁾

協力研究者：川田智恵子²⁾、河内卓³⁾、鈴木和子⁴⁾、武田文¹⁾、土屋久幸⁵⁾
中西好子⁶⁾、根岸千代子⁷⁾、山口鶴子⁸⁾、渡辺宇多子⁹⁾

要約：保健所や市町村における母親学級では、出産後の育児支援につながる友人やグループの形成や地域保健資源への接近などが、効果の一つとして期待されるようになってきている。本研究では、母親学級の受講とこうした社会的ネットワークの関連について検討し、以下の知見を得た。

母親学級の受講者は非受講者よりも「保健所や市町村の母子保健資源の利用」が多かった。受講者の学級後における「地域の施設や機関、情報に目を向けるようになった」をはじめとする何らかの社会的ネットワークの変化は、主に「分娩時の呼吸法」や「妊婦体操」の実習項目で「判断力の獲得」や「行動の実践」が達成できたことと関連していた。また、病院よりも保健所・保健相談所・保健センターでの受講者の方が、保健所や市町村の母子保健資源の認知と利用が高く、学級後の人間関係や地域社会との関係に変化が起っていた。

以上のことから、保健所や市町村の母親学級においては、学級後の人間関係の形成や地域資源への接近という「社会的ネットワークの向上」についても受講効果として位置付け、学習内容や方法を検討し評価していくことが望まれた。

見出し語： 母親学級、地域資源、社会的ネットワーク、受講効果

I. 研究の目的

保健所や市町村の母親学級では、友人やグループの形成、地域の母子保健資源への接近など、育児支援につながる社会的ネットワークの形成が期待されるようになってきている。

本研究では、母親学級の受講効果としての社会的ネットワークの形成に関して、母親学級の

受講者と非受講者で地域の母子保健資源の認知や利用に違いが認められるか、学級後の社会的ネットワークの変化は母親学級での知識・判断力・行動の変容達成と関連しているか、社会的ネットワークの側面は保健所や市町村の母親学級の効果として位置づけられるか、の3点について検討した。

1) 日本大学医学部公衆衛生学教室 2) 東京大学医学部保健社会学教室 3) 埼玉県戸田蕨保健所
4) 大田区糎谷保健所 5) 埼玉県川口保健所(現・埼玉県飯能保健所) 6) 新宿区牛込保健所
7) 練馬区光が丘保健相談所 8) 練馬区練馬保健所 9) 練馬区大泉学園保健相談所

II. 研究方法

東京都区部の保健所・保健相談所5ヵ所および埼玉県南の市部に所在する保健センター2ヵ所において、1993年10月に実施された3～4ヵ月の乳児健診に訪れた母親を対象に調査を行った。実施数は674、回収数は482（回収率71.5%）であった（詳細については、昨年報告した）。

調査項目は、1）属性（年齢、最終学歴、職業、子供の数、世帯類型、住居形態、現住所での居住年数、実家までの所要時間）、2）母親学級の受講の有無、時期、場所、3）母親学級の各学習項目に関する変容評価、4）学級後の人間関係や地域社会関係の変化、5）保健所や市町村の母子保健資源の認知と利用、とした。このうち、1）～3）については昨年報告したので、本稿では4）、5）について述べる。

4）母親学級をきっかけにした人間関係や地域社会との関係の変化について、「家族との関係がよくなった」「友人ができた」「グループができた」「隣近所とのつきあいが増えた」「地域の施設や機関、情報に目を向けるようになった」「特に変化はなかった」の6項目に関して「はい」「いいえ」で回答させた。

5）保健所・保健相談所・保健センターにおける、出産や育児に関する催し・行事・情報などを知っているか、また利用するかについて、有無を尋ねた。

III. 結果と考察

1. 母親学級の受講の有無による地域の母子保健資源の認知と利用の違い

母親学級の受講状況は、「子供が1人」群で

は「今回初めて受講した」者が84.1%、「子供が2人以上」群では「過去にでた」者が84.5%を占め、子供の人数によってまったく異なる。そこで、子供が1人の者のみを取りあげて「受講した」群と「受講していない」群の属性を比較したところ、最終学歴と平均年齢に有意差が見られ、前者の方が明らかに学歴（表1）と平均年齢が高かった（前者が28.0（±3.9）歳、後者が25.6（±4.8）歳）。

表1 母親学級の受講有無による属性の違い¹⁾

	受講した ²⁾	受講していない ²⁾	χ^2 検定 ³⁾
実家までの所要時間			
1時間未満	98 (49.7)	17 (53.1)	
1～2時間未満	39 (19.8)	8 (25.0)	
2～4時間未満	20 (10.2)	2 (6.3)	
4時間以上	40 (20.3)	5 (15.6)	
総数	197(100.0)	32(100.0)	
住居形態			
アパート	74 (33.6)	14 (38.9)	
マンション	75 (34.1)	15 (41.7)	
一戸建て	47 (21.4)	6 (16.7)	
その他	24 (10.9)	1 (2.8)	
総数	220(100.0)	36(100.0)	
現住所の居住年数			
1年未満	59 (26.7)	13 (36.1)	
1～3年未満	117 (52.9)	17 (47.2)	
3～5年未満	26 (11.8)	3 (8.3)	
5年以上	19 (8.6)	3 (8.3)	
総数	221(100.0)	36(100.0)	
最終学歴			
中学・高校	80 (36.2)	23 (63.9)	
専門学校・短大	94 (42.5)	11 (30.6)	
大学以上	47 (21.3)	2 (5.6)	
総数	221(100.0)	36(100.0)	**
職業			
あり	47 (21.3)	9 (25.0)	
なし	174 (78.7)	27 (75.0)	
総数	221(100.0)	36(100.0)	
出産場所			
住所の近く	100 (45.2)	17 (47.2)	
実家の近く	79 (35.7)	13 (36.1)	
その他	42 (19.0)	6 (16.7)	
総数	221(100.0)	36(100.0)	

1)子どもが1人の者のみを取りあげた。

2)「母親学級を今回初めて受講した」「まったく受講していない」

3) **:P<.01

これらのことから、受講状況に影響を及ぼすと思われる年齢、地域、学歴、実家までの所要時間をコントロールした上で、受講の有無によって保健所や市町村の母子保健資源の認知と利用が異なるかどうかを検討した。分散共分散分析の結果、母親学級の受講は「保健所や市町村の母子保健資源の利用」と有意に関連しており、受講者は非受講者に比べてよく利用する傾向が認められた。

すなわち、受講者と非受講者とで、保健所や市町村の母子保健資源の利用に相違があることが示唆された。これは、母親学級の際の保健所や市町村の利用実績も当然含まれていると思われるが、受講者は学級後においても、心理的に地域の母子保健資源を認知・利用しやすくなっている可能性は考えられる。

2. 母親学級における変容達成と学級後の社会的ネットワークの関連

次に、受講者の学級後の社会的ネットワークが、母親学級における知識・判断力・行動の変容達成と関連するかどうかを検討した。

属性と地域、受講時期、受講場所、実家までの所要時間をコントロールした分散共分散分析結果を表2に示す。社会的ネットワーク変化の中では「地域の施設や機関、情報に目を向けるようになった」の項目が、母親学級での変容達成と最も多く関連することが認められた。また、学習項目の側から見ると、「分娩時の呼吸法・補助動作」「妊婦体操・運動」の実習項目での変容達成が、社会的ネットワーク変化の有無と比較的よく関連している。これら有意な関連のみられた項目のいずれにおいても、変容達成群

の方が非達成群より、学級後の社会的ネットワークが向上していた。

学級後に地域の施設や機関、情報に目を向けるようになるということが、母親学級での変容達成と比較的よく関連していたことは、母親学級での変容達成が地域の社会資源への関心を喚起した可能性を示唆している。すなわち、変容を達成することは、学級後の社会的ネットワークにつながるという点からも重要といえる。

また、学習内容別には分娩時の呼吸法や妊婦体操などの実習項目において、主に「判断力の獲得」や「行動の実践」の変容ができた群で、人間関係や地域社会関係になんらかの変化があったり、グループができたり地域の社会資源へ目を向けるようになる傾向があることから、社会的ネットワークに対する効果は、主として実習項目での変容達成と関連していると考えられた。したがって、実習を重点的に位置付け、評価していくことが望ましいと思われる。

3. 保健所や市町村の母親学級の受講効果 —社会的ネットワークの側面—

受講場所によって、学級後の人間関係や地域社会関係、保健所や市町村の母子保健資源の認知と利用がどう異なるかについて、検討した。子供が1人の者のみを取りあげて受講場所が「病院」群と「保健所・保健相談所・保健センター」群を比較したところ、病院よりも保健所や市町村での受講者の方が、保健所や市町村の母子保健情報や催しの認知・利用ともに多く、学級後の人間関係や地域との関係に変化があったと答えていた(表3)。さらに、年齢、地域、学歴、実家までの所要時間をコントロールして

表2 母親学級の各内容に関する変容評価と社会的ネットワークの関連 (年齢、地域、受講時期、受講場所、実家までの所要時間をコントロールした共分散分析結果)

評価項目 ¹⁾	F 値										
	社会的ネットワークの変化 ²⁾	家族との関係がよくなった	友人ができた	グループができた	隣近所とのつきあいが増えた	地域の施設や機関、情報に目を向けるようになった	特に変化はなかった	検定 ³⁾	検定 ³⁾	検定 ³⁾	検定 ³⁾
講義	①妊娠中の生活と衛生 ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	0.09 0.04 0.30	0.03 0.02 1.30	0.78 1.23 0.10	0.03 1.92 0.27	0.21 0.94 1.41	1.85 0.01 1.54				
	②栄養(鉄分など) ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	0.64 0.53 0.34	1.54 0.73 0.78	2.19 2.93 0.12	0.46 2.31 0.49	0.03 1.69 0.00	0.08 3.11 0.60				
	③歯の衛生 ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	0.00 0.08 0.53	0.04 1.16 0.63	5.63 8.96 2.52	1.45 3.33 0.81	0.60 1.57 0.00	0.44 3.00 0.41				
	④分娩の準備・経過 ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	3.62 4.47 2.46	0.24 2.83 0.00	1.88 4.02 3.54	1.57 0.02 0.46	0.80 4.36 3.60	0.99 0.00 0.28		*		
	⑤産後の衛生 ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	2.63 0.79 0.13	0.03 2.19 0.51	0.06 0.56 0.31	3.32 0.29 0.21	2.47 2.43 5.56	0.21 0.57 0.00			*	
	⑥沐浴 ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	0.06 0.06 3.73	0.52 0.18 1.37	1.31 0.52 0.08	0.76 0.63 0.05	0.24 0.52 5.40	0.65 0.15 7.52			*	**
	⑦育児について ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	0.00 1.43 0.08	1.10 2.68 0.40	0.00 0.06 0.94	0.01 0.32 0.53	0.30 2.33 5.39	0.31 0.07 2.77				
	⑧分娩時の呼吸法・補助動作 ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	0.03 5.43 2.30	0.08 0.06 3.76	6.20 1.32 2.78	0.79 4.06 0.68	0.01 13.01 2.06	0.84 7.50 7.71		*	***	**
	⑨妊婦体操・運動 ・不安の解消 ・判断力の獲得 ・行動の実践	4.25 3.76 0.00	0.75 5.22 13.04	0.49 0.04 1.15	4.92 3.55 3.74	0.23 6.55 0.02	4.34 9.10 5.36		*	*	**

1) 評価項目①～⑨に関してそれぞれ「不安を解消した」「困ったり迷ったりした時に自分で判断できた」「実際に行動した」「実際の行動した」に対する「はい」を1、「いいえ」を0とした。
 2) 社会的ネットワークの変化に関する項目はいずれも「はい」を1、「いいえ」を0とした。
 3) 検定はF検定を行った。*:P<.05 **P<.01 ***P<.001

表3 母親学級の受講場所による学級後の社会的ネットワークの変化、保健所・市町村の母子保健資源の認知と利用の違い

		病院	保健所・保健相談所・保健センター	χ^2 検定
出産や育児、子供の発達や病気に関して保健所・保健相談所・保健センターから知識や情報を得られる	しばしば	12(9.1)	8(18.6)	*
	ときどき	37(28.0)	13(30.2)	
	あまりない	52(39.4)	21(48.8)	
	ない	31(23.5)	1(2.3)	
出産や育児、子供の発達や病気に関して保健所・保健相談所・保健センターに心配事を相談できる	しばしば	18(13.6)	11(25.6)	**
	ときどき	25(18.9)	12(27.9)	
	あまりない	48(36.4)	17(39.5)	
	ない	41(31.1)	3(7.0)	
出産や育児に関する保健所・保健相談所・保健センターでの催し、行事、情報等を利用する	利用したことがある	52(40.3)	29(69.0)	**
	利用したことがない	77(59.7)	13(31.0)	
母親学級をきっかけにして、人間関係や地域との関係に変化があった	はい	69(53.5)	31(73.8)	*
	いいえ	60(46.5)	11(26.2)	

χ^2 検定 * : P<.05 ** : P<.01

も、同様の有意差が認められた。

すなわち、保健所や市町村での母親学級は病院に比べて、社会的ネットワークの側面に対する効果が高い可能性が示唆された。よって、保健所や市町村での母親学級においては、学級をきっかけとした人間関係の形成や地域社会への接近という、出産後の育児支援につながる側面をより一層評価し、学習内容や方法を検討していくことが望ましいと思われた。

IV. 結論

母親学級の受講と社会的ネットワークの関連について検討した。母親学級の受講者と非受講者では、保健所や市町村の母子保健資源の利用に相違が認められた。受講者においては、学級後に「地域の施設や機関、情報に目を向けるようになった」ことが、母親学級での変容達成と比較的よく結びついており、この側面からも変容達成の重要性が示唆された。また、学習内容別にみると、分娩時の呼吸法や妊婦体操などの実習における「判断力の獲得」や「行動の実践」

の達成が、学級後の人間関係や地域社会関係の変化と関連する傾向がみられたことから、実習を重点的に評価していくことが必要と思われた。さらに、保健所や市町村での母親学級は病院に比べて、受講者の社会的ネットワークにおける効果が高いことが示唆されたことから、出産後の育児支援につながるこうした側面をより一層位置付けて評価していくことが望まれた。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:保健所や市町村における母親学級では、出産後の育児支援につながる友人やグループの形成や地域保健資源への接近などが、効果の一つとして期待されるようになっている。本研究では、母親学級の受講とこうした社会的ネットワークの関連について検討し、以下の知見を得た。

母親学級の受講者は非受講者よりも「保健所や市町村の母子保健資源の利用」が多かった。受講者の学級後における「地域の施設や機関、情報に目を向けるようになった」をはじめとする何らかの社会的ネットワークの変化は、主に「分娩時の呼吸法」や「妊婦体操」の実習項目で「判断力の獲得」や「行動の実践」が達成できたことと関連していた。また、病院よりも保健所・保健相談所・保健センターでの受講者の方が、保健所や市町村の母子保健資源の認知と利用が高く、学級後の人間関係や地域社会との関係に変化が起っていた。以上のことから、保健所や市町村の母親学級においては、学級後の人間関係の形成や地域資源への接近という「社会的ネットワークの向上」についても受講効果として位置付け、学習内容や方法を検討し評価していくことが望まれた。